■令和元年度　第１回新潟市花育推進委員会

日　時	令和元年5月31日（金）午前10時00分～11時30分
会　場	新潟市食育・花育センター講座室Ａ
出席委員	青山委員，片岡委員，坂上委員，玉木委員，中野（繁）委員，中野（優）委員，八百板委員，横山委員　（欠席者：岸本委員，須田委員）
傍聴者	なし
事務局	食と花の推進課（松尾課長，岸本補佐，黒崎係長，岩城栄養士，渡邉職員） 公園水辺課（竹石補佐）　農村整備・水産課（田中係長）　保育課（吉原指導保育士） 学校支援課（安藤指導主事），食育・花育ｾﾝﾀｰ（真柄センター長，岩野ﾏﾈｰｼﾞｬｰ）

	議　　事　　録
司　　会 （岸本補佐）	ただいまより、令和元年度第１回新潟市花育推進委員会を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます、食と花の推進課課長補佐の岸本です。よろしくお願いいたします。開催にあたり食と花の推進課課長の松尾より皆様にご挨拶もうしあげます。
事務局 （松尾課長）	皆様、おはようございます。本日は、月末というお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。 私事で恐縮ですが、４月の頭に雪椿の苗をあるところからいただきまして、８センチくらいの苗を家に持ち帰りまして鉢に植え替えて水をやることを日々やっておりますけれども、ときどき写真も撮ったりして成長記録ということで、だいぶ大きくなってきたのですけれども、当初 20 センチくらいだったものが、今朝は 30 センチくらいになってきて、大きくなって嬉しいのですけれども、さて、家のマンションのベランダですけれども、このまま大きくなっていったらはたしてどうしたらいいのだろうということをふと思いまして、これが 40 センチ、50 センチとなっていったときにどうしたらいいのかということについて、もしかしたら皆さんにアドバイスいただくことがあるかもしれませんが、そのときはよろしくお願いいたします。 時代は令和に変わりまして初めての花育推進会議ということでございます。また心機一転頑張っていきたいと思っておりますので、皆さんからもご協力をいただきたいと思っております。本日、後段のほうで花育の日の取組みについて議論をしたいと思っております。これまで、この会議はどちらかというと説明が長くて、皆様から最後に一言ずついただくような会議が多か

	ったのですけれども、そのスタイルを改めまして前段の説明はかなりはしおって簡単なものとして、後段の花育の日の取組みについて突っ込んだ議論を皆さんとさせていただきたいと思い、少し時間の配分を変えようと思っておりますので、前半の説明が雑ぱくになるかもしれませんがそこはご容赦いただければと思っております。ぜひ、忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、皆様からよろしくお願いできればと思っております。今日は１日よろしくお願いいたします。
司　会	ありがとうございました。議事に入る前に３点確認させていただきます。まず、１点目は配布資料の確認です。まずは、次第が１枚、座席表が１枚、令和元年度の委員名簿が１枚、平成 30 年度の取組みについての資料が３枚、令和元年度の取組みについて資料２というものが４枚、次年度以降の花育推進の取組みについて資料３が４枚、最後に平成 30 年度多面的機能支払交付金活動事例集という冊子が１部です。この中で、本日配付させていただいた資料は座席表、委員名簿、事例集になります。本日の配付以外のものも含めまして、不足の資料はございませんでしょうか。 　２点目です。会議の録音についてでございます。当会議は公開になっておりますので、後日ホームページなどで議事録を公開する都合上、会議の記録を起こさせていただくことをご承知おきください。 　３点目は、役員の改正についてです。今年度は役員改正の年でございますが、引き続き委員の皆様におきましては就任いただくということで個々に承諾を得ていますことをここでご報告させていただきます。また、片岡委員と玉木委員につきましては、新潟市花育推進委員会設置要綱で定める委員の任期の最長６年を経過しましたけれども、花生産流通関係者としてほかの方に代えがたいということから引き続き委員をお願いしたいので、設置要項の一部を改正することで対応させていただきましたことを併せて報告させていただきます。委員の皆様には引き続きよろしくお願いいたします。 　皆様のご紹介は、配付資料の名簿および座席表により割愛させていただきます。なお、本日、岸本委員、須田委員につきましては業務のため欠席の連絡をいただいておりますことを報告させていただきます。 　次に、委員会における会長および副会長の選任でございます。会長および副会長は、委員の互選によって決定することとなっています。事務局として提案ですけれども、前回に引き続き、会長を中野優委員、副会長を片岡委員

	にお願いしたいと考えますが、いかがでございましょうか。ありがとうございます。では、中野委員、片岡委員よろしくお願いいたします。 　それでは、これより次第２、議事に入りたいと思います。 　ここからは、中野会長より議事を進行していただきますので、中野会長は議長席へ移動をしていただきます。
中野会長	皆さん、おはようございます。私、中野が議長をさせていただきます。それでは、さっそくですけれども会議を進行させていただきます。進行の方法としましては、次第にあります議題（１）、（２）の説明が終わった時点で、一度委員の皆様の質疑やご意見についてお受けいたします。その後、議題（３）、（４）それぞれが終わった時点で質疑応答をいたしますので、よろしくお願いいたします。 　では、（１）平成 30 年度花育推進事業の取組みについて、事務局より説明をお願いいたします。
事務局 （黒崎係長）	事務局の食と花の推進課の黒崎です。よろしくお願いいたします。それでは、資料１をご覧ください。昨年度の末にお送りしました資料２において、当課食と花の推進課が行う花育の日の取組みと花育マスターの制度についてはすでに報告をさせていただきましたけれども、本日は計画の数値指標の取組み状況と関係団体と連携した取組みについて簡単に報告をさせていただきます。 　１ページの数値指標の取組み一覧表をご覧いただきたいと思います。それぞれの指標に関する取組みの概要につきましては１ページ以降に写真をつけながら分かりやすく内容を記載しましたので、また少しこちらもご覧いただきながら簡単に説明をさせていただきます。まず、１ページのこの表の１、情報紙の発行部数につきましては平成 30 年度が 6,000 部発行しました。内訳は、年に３回各 2,000 部となります。平成 29 年度の年は、年に４回各 4,000 部合計１万 6,000 部を発行しました。これが減少した理由ですが、予算の関係で部数、発行回数ともに減少したところです。 　２の花育関連講座の受講者数につきましては、各種園芸講座、寄せ植え講座、ハーブ、アロマ等の講座などを食育・花育センターにて実施いたしました。受講者数は 2,815 人で、回数は 88 回でした。平成 29 年度は 2,918 人で、この年は 88 回開催いたしました。１回の開催にあたって参加した人数

	を比較したところ、平成 29 年は１回当たり平均 34 名、平成 30 年度は１回当たり平均 32 名で現状をほぼ維持した形となりました。 ３、花育の日、花育月間の推進についてですが、こちらにつきましては花育の小売店の協力のもと、のぼり旗の掲揚のほか各店独自の取組みを行うとともに後半の 10 月には球根植えの体験などを取り入れたりしまして、年に２回花育月間、花育の日の取組みを実施いたしました。 ４、花育マスターの派遣回数についてです。平成 30 年度は 105 回でした。平成 29 年度の 157 回という派遣件数よりも３割減となっています。これは、平成 30 年度より制度の運用を変更いたしまして、１団体当たりの利用回数を年に２回から１回にしたことが主な理由と私どもは考えております。前年同期と比較すると減少となりますが、それが一つの理由となります。３ページの（４）の表を見ていただきたいのですけれども、これは平成 29 年度と平成 30 年度の利用状況の比較になります。派遣回数は今お話したとおりですが、対象人数が平成 30 年は 3,819 人、平成 29 年が 4,757 人となっております。これを１回当たりの参加者数として平均を割り出しますと、平成 29 年が１回当たり平均 30 人に対して平成 30 年度は 36 人が平均となっています。これは、同じく平成 30 年度から運用方法の変更で１回当たりの最低参加人数を 10 人から 15 人に引き上げたことが要因になっていると思われます。先ほどの回数についての補足ですけれども、確かに前年度と比較しますと３割減という結果となりましたけれども、実は平成 30 年度よりマスター制度の予算に上限を設けまして、予算額に達した時点で派遣を終了することとしました。その上限が 105 回でしたので、予算的には予定どおり実施したということになります。 続きまして、１ページの数値一覧表の５、花育団体体験プログラム等の実施につきましては、小学校、保育園、幼稚園等の要望に応じたプログラムを実施しました。実施校園数は 67 回、2,567 人でした。６、保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動については、市内の公立の保育園等にアンケートを行った結果となります。全体では、54 パーセントで昨年度とほぼ同じでした。これも、資料３ページの一番下（６）をご覧ください。この表は、校園別の実施状況になります。花育の活動率は全体で 88 パーセントと９割の校園が実施していますけれども、地域との連携については小学校が 72 パーセント、保育園が 27 パーセントとなっており、保育園の連

	携率が低くなっています。保育園においては、職員にかかる負担が実施の有無に影響していると思われます。 　今一度、資料の一覧表に戻ってください。７、生産現場の花育活動登録者数につきましては、昨年度と変わりませんでした。８、緑化活動推進事業の実施団体数については、358 団体でした。９、新潟の花や緑について生産者や流通の現場で学ぶ講座等の受講者数については、秋葉区が生産者現場を巡るバスツアーや栽培講習会等を実施し 241 人の参加がありました。10、多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成等への取組み率は 87.6 パーセントでした。この指標ナンバーの２、５、８、10 については、次の議題の今年度の取組み状況のところで関係課からも話が出ると思います。 　次に、５ページをご覧ください。こちらが関係団体と連携した取組みになります。関係団体と連携した取組みにつきましては、新潟花育推進委員会と連携した新潟の花を贈ろうキャンペーンを表に示すとおり年に５回実施しました。 　次に、６ページをご覧ください。こちらは、にいがた花絵実行委員会と連携した花絵制作についてです。開港 150 周年記念と連動し例年どおり実施いたしました。
中野会長	ありがとうございました。続きまして、（２）令和元年度花育推進事業の取組みについて、引き続き説明をお願いいたします。
事務局 （黒崎係長）	引き続き、食と花の推進課の黒崎より、令和元年度花育推進事業の取組みについて、特に食と花の推進課所管の取組みについて説明させていただきます。資料２をご覧ください。まず、１の花育の日における普及活動についてです。生活の中により身近に花や緑を取り入れることをとおして豊かな心を育み、花を介した世代間交流の促進と快適でやすらぎのある暮らしを推進することを目的に４月と 10 月の年に２回、今年も取組みを実施する予定です。４月の取組みでは、市内花育の協力店の協力によりまして、のぼり旗の掲揚、花の種プレゼントの共通の取組みのほか、店独自の取組みとして特典やお花のプレゼントなどの取組みを実施していただきました。 　また、今回は不特定多数の方たちが集まる場所ということで、アピタ新潟西店にて花育の日や花育について知ってもらうよう来場者に声を掛けながらリーフレットと花の種を配付しました。昨年度は、ネクスト 21 にて同様の

	取組みをしましたけれども、あそこは目的地に向かって歩いている方が多くてなかなか足を止めてくださる方がいらっしゃらなかったのですけれども、アピタ新潟西店につきましては非常に興味を持ってくださる方が多く、場所の選定も大事だと思いました。10 月の花育の取組みについては現時点では予定ということでここに案を書かせていただいておりますが、子供とその保護者に花に触れてもらい、花に興味をもってもらうきっかけづくりとなるよう球根植え体験を実施する予定です。また、不特定多人数の人が集まる場所で開催されるイベントに連動して花育体験ができないか、現在、検討中です。 　次に２の花育マスターによる地域での花育活動の推進についてです。花育マスター制度の運用につきましては昨年度３月の事業報告にてお送りした際に報告をさせていただいたとおりですけれども、今年の４月より講師を派遣する制度から紹介する制度と変更し、それに伴いマスターへの講師謝礼の助成がなくなっております。マスター制度が地域での花育活動を広げるためには必要であることは十分私ども認識しており、その運用方法について、今年の実態を把握しながら検討していきたいと考えております。 　３、関係団体と連携した取組み、①と新潟花育推進委員会と連携した新潟の花を贈ろうキャンペーンについては表に示すとおり年に５回予定しております。２の新潟花絵プロジェクト実行委員会と連携した花絵制作につきましては、４月 29 日の祝日に無事に終了しております。今年度はG20 新潟農業大臣会合開催を記念して、それに沿ったテーマで実施しました。花育推進委員の横山さんにも花絵の実行委員会として参加していただいて、こちらに示す写真のような、みんなでおにぎりを食べている花絵と世界地図の花絵を制作してG20 を盛り上げました。 　４、花育に関する情報発信についてです。花育に関する情報発信のツールとして花育通信というものを定期的に発行しておりますが、今年度は３回発行する予定です。配布先はこちらに示すとおり、学校、保育園、公共施設、花育関連施設等を予定しております。情報発信の方法はたくさんありますので、これ以外にもホームページなどで活用方法などを活用して情報を発信していく予定です。５、生産現場の花育活動については、花き生産が盛んな秋葉区において、生産者と共同で実施するバスツアーや花の栽培講習会などを開催する予定です。以上で、食と花の推進課の説明を終わります。

中野会長	ありがとうございました。 では、引き続きまして食育・花育センターの取組について、ご説明をお願いいたします。
事務局 (真柄センター長)	食育・花育センターの担当している真柄といいます。よろしくお願いいたします。皆様ご存じのとおり、当センターは昨年度から指定管理者であるいくとぴあ食花運営部が運営をしています。センターでは、食育および花育を推進し豊かな人間性を育むという設置目的、この具現化をするために年間 66 回の園芸教室と 27 回の展示会を開催しております。写真は今年の４月に開催したハーブ講座と春の山野草展の様子です。昨年度は、75 回の園芸教室で約 2,000 人から受講していただきました。また、展示会も 28 回開催しています。 ２ですが、センターでは専門の相談員を配置して園芸相談を実施しております。直接お見えになる方々だけではなくて、電話やメールによる相談にも対応しています。相談件数も増えており、昨年度は約 4,500 件の相談がありました。当機関には、メールによる相談も 65 件ありました。 ３で、幼稚園、保育園、学校向けには 60 の団体体験プログラムと 13 のアグリ・スタディ・プログラムを提供しています。皆さんご存じだと思うのですが、これは農林水産部と教育委員会が作っている学校の事業としてのアグリ・スタディ・プログラムです。そのほかに、いくとぴあ食花全体で行う団体体験プログラムというものを提供しています。その内、花育のほうはこの中で 16 プログラムあります。昨年度は、272 の学校関係団体に利用していただきました。内訳は、保育園、こども園が 133 団体で約利用者 49 パーセント。半数が保育園、こども園です。続いて、小学校が 75 団体ということで 28 パーセント、約３割が小学校というふうに続いています。 ４番目を見ますと、センターでは関係団体、市民参画協働課との事業も進めています。今年度は、６月 23 日にラベンダーフェスタ、11 月３日にアロマの日の開催を計画しています。また、花の実物展示や、５に入りますが花の実物展示や情報発信に努め、来館者に花の魅力に触れていただき、市民に親しまれるセンターにしていきたいと考えています。私自身、１月からの勤務でなかなか十分できませんが、皆様方のご指導をいただきながら市民に親しまれるセンターを目指していきたいと思っております。
中野会長	ありがとうございました。それでは、続きまして関係課の取組につきまして

	ご説明をお願いいたします。
事務局 （公園水辺課）	公園水辺課の竹石と申します。よろしくお願いいたします。緑化活動推進事業について説明させていただきます。こちらの事業につきましては、公園などの公共施設に緑化を行っていただいております自治体、コミュニティ協議会等の緑化活動団体への支援として花や苗などの購入に対しての補助を行いまして、緑豊かな町並みづくりを推進するということを目的に行っております。 昨年度のこちらの委員会でも説明があったかと思われるのですが、従来の制度としましては花、苗、球根、プランター、スコップ費用などの資材も含めまして上限 20 万円を対象とした現物支給を助成というか補助制度として行っていたところですが、新潟市の財政状況の中から事業点検を実施しまして、新たに昨年度より花、苗、種、球根を対象としまして補助額５万円を上限とした補助金制度に移行したというところでございます。その影響もありまして、平成 29 年度から平成 30 年度にかけまして取り組んでいただいていた件数が 405 から 358 に減少したというところでございます。補助制度の規模縮小ということに加えまして、緑化活動を行っていただいております団体の、やはり高齢化というものも若干ありまして団体数は減少したというところだと考えております。今年度につきましても同様の補助制度で助成、緑化団体に補助しているということですけれども、現在の見込みとしてはほぼ平成 30 年度取り組んでいただいた団体には引き続き取り組んでいけるのかと考えております。
事務局 （農村整備・水産課）	新潟市農林水産部農村整備・水産課の田中からご説明をさせていただきます。皆様には、日ごろから当市の農村整備水産事業にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。 私からは、第２次新潟市花育推進計画の施策の一つである花や緑に親しむ場の整備の一環として、当課が所管する多面的機能支払交付金事業を活用した植栽による景観形成について紹介させていただきます。多面的機能支払交付金事業とは、農業、農村の有する多面的な機能である国土の保全や水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の維持やさらなる発揮を図るため、法に基づき農地周りの草刈りや水路の泥あげ、集落内の花の植栽などの活動をしていただく団体へ資金活動の支援を行うものとなっております。

	ここで活動していただく団体とは、地域の農業者のみならず子ども会や老人会、消防団、地域文化保存会など地域の方々から任意に構成していただき、本市が活動組織として認定した団体となります。 　お手元に配付させていただきました資料は、本市が作成した多面的機能支払交付金事業の活動事例集です。このパンフレットは、平成 30 年度に活動した市内 137 組織のリストを掲載するとともに取組みの事例を紹介するものとなっております。お手数ですが、16 ページをお開きください。16 ページには、南区の小林みどり会広域協定が紹介されております。17 ページの上段の写真に示しますように農業者のほか子供やお年寄りなども参加して、白根ハーフマラソンコースのクリーン作戦やひまわりの植栽などの共同活動をとおして地域の皆さんが一緒になって農村環境の景観向上の作業を行っていくものです。今後ともこのような取組みを通じて花や緑を介した世代交流を図り、地域の皆様と地域のつながりを深めることで花育を推進していきたいと考えております。
中野会長	ありがとうございました。ただいま、食と花の推進課、それから食育・花育センター、そして関係課よりご説明がありました。これらご説明に対しまして、ご質問ご意見等ありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。
横山委員	資料１の３ページのところの保育園、幼稚園、小学校の地域との連携による実施率のその率ですけれども、171 校 88 パーセントというのは重複している学校とかはカウントされないのでということでよろしいでしょうか。
事務局	重複はしていません。
中野会長	ほかにいかがでしょうか。
坂上委員	坂上と申します。よろしくお願いいたします。資料２の１ページ、10 月の取組み内容の予定ということで、黒崎さんが未定とおっしゃっていたのですけれども、新潟で今年、新潟文化祭というものがあるので聞いたのですけれども、そのときはだいぶ人が動くのはないかと思うのですが、そういったイベントに合わせてというのは考えておられますか
事務局 (黒崎係長)	ありがとうございます。これは、あくまでも案ということで据え置いておりますけれども、今日これから、花育の日の取組みについて皆さんからご意見を頂戴するわけですけれども、そんな中でよりよい取組みでもうすぐにでもできるようなものがあれば、この秋からの取組みにも入れ込んでいきたいと考えておりますので、予定として新しい文化祭とか、あとは私どものほうで

	こういった取組みではなくてもう少し場所を広い大勢の人たちが集まる場所なんかでやるイベントと連動してやる取組みなんかもいいねというふうなことを担当者レベルで話をしている段階ですので、また後半の話し合いの中でそういったご意見を頂戴しながら私どもも取組みに反映させていきたいと考えております。ありがとうございます。
中野会長	よろしいでしょうか。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。 私から１点よろしいですか。Ｇ20 の花絵を私も実際拝見させていただき、例年以上にもう素晴らしいと思ったのですけれども、実際に海外からいらっしゃった方なんかは感想とかというものはどう感じられたのでしょうか。
事務局 (松尾課長)	４月 29 日に設置しまして撤去が５月２日と４日間の展示でしたので、実際Ｇ20 は 11 日、12 日とその 10 日後なので、直接は拝見されていないのかと思います。
中野会長	一般の方のご意見はいかがだったでしょうか。そのあたりは、やはり聞こえてくるようなものはないですか。
事務局 (松尾課長)	一般の方も、Ｇ20 の記念、機運を盛り上げる世界地図を作るということで、かなり一般の方の参加がまず多かったということが１点あるかと思います。終わったあと、来年もまたやりたいという声がほぼ全員でした。あと、ご覧になった方々もチューリップで世界地図とかが作れるのだという新鮮な感動を思った声を聞かれました。世界地図には、参加国また関連国の国旗も立てましたので、非常にビジュアル的にもインパクトが強かったのではないかと思います。楽しい感じを出していましたので、大人子供問わず高評価だったと思います。
中野会長	ありがとうございます。そのときの写真か何かあると。もっとほかにないのでしょうか。 上からみたものとか。
片岡委員	私なんかは、朱鷺メッセの会場の開会調整に携わって、なかなかおもしろかったですがなかなか難儀したのです。やはり、少しでも関係したものにとって、写真をその都度皆さん関係者がくださるので、それも１枚２枚といわずもっとこう、近いところ、委員に配布していただけるとありがたいです。

中野会長	そういう機会がありましたら、来年度以降はよろしくお願いします。ほかにいかがでしょうか。それでは、ほかにないようでしたら、次の議題に移りたいと思います。 　続いて、（３）次年度移行の花育推進の取組みについて、まず事務局より説明をお願いいたします。
事務局 （黒崎係長）	それでは、食と花の推進課黒崎より資料３について説明させていただきます。まず、最初に資料の訂正をお願いしたいのですが、資料３と書いてある表面を１ページめくっていただいて、委員よりいただいた意見が書いてある①関心層にアプローチするための方法と書いてありますが、無関心層にアプローチするための方法です。①を入れるときにかぶってしまったみたいで申し訳ありません。訂正をお願いいたします。 　それでは、今日はこれより花育の日の取組みをとおして、花育の普及活動を効果的に行うためにはどんな取組みをしたらよいかというふうなことで皆さんから意見を頂戴したいと考えておりますけれども、その前に、資料３について簡単に説明をさせていただきます。これは、昨年度末に花育の日の取組みについて１からその他も含めて５までの五つの質問を皆さんにご提示させていただいて、それについて事前にいただいたご意見をこのような形でまとめたものです。質問ごとの四角の中は、それぞれの項目ごとの意見を集約させていただいたもので、委員のお一人おひとりからいただいたご意見については課題のほうにそのままの表現で記載をさせていただいております。 　この四つの質問に共通している視点といいますか、すべて読ませていただいて、共通している部分としては情報発信といったキーワードがすべての項目に出てきているというところで、それぞれの質問に対応したご意見をいろいろな視点でいただきました。 　また、取組みの内容についても非常に多岐にわたっていただきました。イベントの実施について、学校等での取組みについて、さまざまな体験、それをどういうところでどういう目的でどういう内容でやるかというのは、それぞれの質問に対しての答えとして、多少表現は違うもののイベントなどの取組みを不特定多数の集まる場所でやったらいいとか対象を限定した場所でやったらいいというふうなことでそれぞれ課題に対応した形でのご意見を頂戴したところです。そんなところをこの資料３としてまとめさせていただいて

	おります。 　今日は、それらのご意見を踏まえながら、具体的な内容などをさらにつっこんで意見交換をしていただきながら、最終的に花育の日は何をする日なのかとか市民に対して何を伝えたいのだとか、花育の日をすることによって市民に対して、子供たちに対して何を伝えたいのだといったメッセージ的なものが見えてくるといいと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。よろしくお願いいたします。
中野会長	①から⑤までありますけれども、順を追って改めて。ただ重複している部分があると私は思っているのですけれども、まず、その①無関心層にアプローチするための方法ということで、これは一番今お話がありましたとおり、情報発信的なところに直接かかわってくるので、かなり重要なところだと皆さんお考えだと思うのですけれども、すでにご意見も出していただいているのですけれども、改めてここで一言いいたいというようなことがありましたら皆さんから、ここにあることでも結構ですし、さらに加えてこういうこともあるのではないかということ、あるいはほかの方の意見を聞いてこういうことはどうか、そのあたりありましたらぜひよろしくお願いいたします。
青山委員	全然１、２とか沿わないと思うのですけれども、このセンターのすごい大きな施設で何かをやることもとても大事だとは思うのですけれども、今年も10 月に予定していますチューリップの球根植えの体験ですとかそういうものを、実は土をいじることなのでどこかでやるのは難しいかもしれませんけれども、それこそ大型スーパーにその日に行って、ちょうどそこを通りかかった親子や子供が本当に一つ小さい鉢植えに球根一つ植えて持って帰るというと、きっとそれは家でその球根の鉢植えをとても大事にすると思うので、そういうふうにここに来る、足を運んで来るのを待つのではなく、どこかにこちらのほうが出向いていかないときっと広がっていかないと思います。 　実は、新潟の花を贈ろうキャンペーンもきっとこちらの施設にそういう使用パネルの展示ですとか、新潟ではこんな花を作っていますというような展示があると思うのですけれども、それも実はここでやることも大切ですけれども、そのときにどこか人目につくところでそういう展示ですとか、そのときにお花の１本でも配れるような予算でもあればそういうことをするとか何か出ていかないときっとここに足を運ぶ人は決まった方だったりということ

	があると思うので、外に出ていくのが実は一番大事で、人目に触れるというところからまずは考えたほうがいいと思います。
中野会長	ありがとうございます。誠にごもっともだと思います。ここにいらっしゃる方々はもうすでに無関心層ではなくて関心層ということなので、やはり無関心層にアピールするためには、要するにここに来ないからやはり情報発信する。今ＳＮＳですとかネットとかいろいろ便利なものがありますけれども、やはり関心がある方でないとそういうサイトにもいかないということが今ありますので、そのあたりを。 　例えば、花育の日がいつなのかということも知らない方は出向かないかと思うのですけれども、今大型スーパーという話が出ましたけれども、私なんか個人的にはやはり不特定多数ということになると土をいじるということがなかなか難しいと思うのですけれども、やはりＪＲの駅、今ＪＲの駅が新しくなっていることを皆さんご存じだと思うのですけれども、ああいう辺り、ＪＲ東日本のほうにアプローチしていくとお互いにいいのではないかというところに行き着くようなこともしかしたらできるのではないかという感じも少ししていて。それこそ、先ほどの花の広報、イベント、季節、季節にご苦労があるということをそういうところでやったりとか。今度は、市民もそうですけれども県外から来た方にアプローチするとか。やはり県外から来た方はなかなか、新潟はやはり米どころだけれども花はあまりイメージがわかない方が多いと思うのですけれども、新潟でこういう花を今の季節に作って少し送ってみようかという方もしかすると増えるかもしれないので、そのあたりをぜひご検討いただきたいと個人的には思っているのですけれども、皆さんはそのあたりいかがでしょうか。 今やはり無関心層に関心を持ってもらう情報発信の場というお話が出ましたけれども、そのあたり長期的に見て何とかするということもちろんあるのですけれども、先ほど事務局からありましたように、例えば今年度手をつけられることがもしかしたらあるのではないかというような気もしますので、そのあたり細かいところでもかまいませんので、こんなアイデアいかがでしょうかということがありましたら、ぜひよろしくお願いいたします。
中野(繁)委員	今、青山委員がおっしゃったことは私も大賛成ですけれども、そういうというのは何か問題があるものでしょうか。人為的なもの、人がいないとか金額的なものとか予算がとれる、とれないとか。やれるのであればいろいろなこ

	とを考えていかれるのですけれども、そういうときいろいろな問題、問題があるからできないかもしれないなんてことをもう何ていうか突き詰めて考えていくというようなこと、今のことはとてもいいと思うのです。例えば、私もここをお世話になって教室をさせていただくことがあるのですけれども、外でもいいと思うことが。本当に、そこの外のテント下に行ってもいいとそういう気軽な考え方というかお金もかからないと思ったりもするのですけれども、そこら辺何か問題がいくつ、これをやろうとしたらこれがある、これがあるというようなことを真剣に考えて、つぶせるものからつぶしていくような形というのはないものでしょうか。
事務局 （松尾課長）	こういってしまうと身も蓋もないのですけれども、やはり一番先立つものは予算なのかと。お花屋さんにお花を買いに来る人は自らのお金を投資するということは抵抗がないのでしょうけれども、まち行く人にいきなりお花を買ってくださいとかといっても、なかなか買ってくれないので、となると無料配布とか、ぜひお家でこれを育ててくださいというようなことになるのですけれども、そうすると、資材の負担はだれがするのかということで、我々も幾ばくかの予算もありますけれども限界があるのです。分ける数が増えれば増えるほど対象者が増えていくと思うのですけれども、そこに限界があるということです。
片岡委員	質問ですが、私は圧倒的にテレビやメディアや新聞なんかにこうした花関連や花育の関連のイベントで報道される、あるいは告知されるということが本当に今の時代は重要だと思うのですが、何かメディアに対して定例的に情報発信というようなイベント発信というものはしておられるのですか。
事務局 （松尾課長）	市政記者クラブには、その都度、報道提供ということで資料提供はさせてもらっています。
片岡委員	テレビなんかはあるわけですか。
事務局 （松尾課長）	同じです。新聞紙だと財界にいがたの民法誌を含めて、一斉に 25、26 社には同じ情報を提供しています。
片岡委員	１年を通じてですか。
中野会長	今、メディアのことがかなりいろいろ詳しく出ましたけれども、それに関連して何かありましたら、お願いいたします。

横山委員	今、片岡副会長がおっしゃることはごもっともだと思って聞いておりました。プレスリリースをしても、あのボックスの中から取って、どれほどトピックスがあっても取り上げてくれるかどうかということに私は少し疑問なところがあります。そういう意味で、この花育推進委員会にお一人メディアの方、広い認識を持っている方ということで入っていただいたりすると、少しは、なるほどねといように、やはり個人的にアプローチをメディアの方もすると、取り上げる機会が多くなると思うので、この委員の中にお一人でもそういう方いらっしゃるのはどうなのかと。聞いた話では、教育委員会などは必ずメディアの方が交代で何人かお入りになっていると伺っているので、提案させていただきます。
中野会長	そのあたりの実現性というのはいかがですか。
事務局 (松尾課長)	公開の会議で、マスコミが取材という形で来ることはあると思うのですけれども、委員としてメディアの方が入るということは、なかなか市のこういう会議では珍しいとは思うのですけれども、当然、だめということではありませんので、少し検討してみたいと思います。
中野会長	現役を退いたかたとか。
事務局 (松尾課長)	その方のほうが入りやすいかもしれません。やはり、メディアもいろいろあるので、普通であれば新潟日報かと思いますけれども、やはり読売新聞とか、なぜ日報だけがみたいな話になってしまうとややこしいので、おっしゃるとおり、少し引退されてそのくらいの方のほうがあたりがよいかもしれません。
中野会長	ほかにございませんか
坂上委員	今、中野委員の顔を拝見して、昔私たちがやったお祭りに花山車を出そうということを思い出しまして、それをもう少しきれいにというか大きくしたらメディアが勝手に取り上げるのではないかと思ったのですけれども、お祭りとか人が集まるところにわざと人と違ったもの、花で作った山車みたいなものを流すと。花育の日の前だけ宣伝してもだれもついてくれないですけれども、そういう祭りごとの人が集まるときに目を引くものを作って出したらおもしろいのかと思いました。
中野会長	例えば、もう少し詳しくどんなふうにされてきたのか。

坂上委員	15 年くらい前にお遊びで、新潟祭りの民謡流しのところで花山車を出そうということで勝手に中野委員にすごく苦労していただいて、お花をその台車のところに飾って引っ張りながら踊る人と山車を出してみんなに花を着せようみたいなことを勝手にやっていたのですけれども、それをきちんとしてこういうものを出しますというプレスリリースすれば、何かおもしろいことをやるということで勝手に取り上げるのではないかと思います。
中野会長	かなり大きなアピール力で、それで実際参加された方も見に来られた方も。かなり具体的で興味深いアイデアがたくさん出ていますけれども、ほかにいかがでしょうか。
玉木委員	花商をやっています玉木と申します。よろしくお願いいたします。この無関心層にアプローチするための方法というものをとって、実はもうずっと前からいろいろなイベントでしたりとか、ここでもバレンタインを普及させようと思って市長と一緒に花配りをずっとしてきたりとかということをやってきましたけれども、本当にあたっているのかあたっていないのかということがよく分からないのです。 　そこで、できれば私も聞いてみたいのですけれども、無関心な人たちを集めて、なぜ花に興味がないのですかということできついことを言われるかもしれないと思います。例えば、すぐごみになるので買いたくないとかいう意見も多分出ていると思いますけれども、それはそれできちんと受け止めて、ごみにならないようにするためにはどうすればいいのかとかいうことはこちらのほうで考えればいいことではないかと思っています。先ほど中野さんが言われたみたいにＪＲだったらＪＲのほうのイベントの会社がありますので、専門の方と一緒に話をしたらいいのではないかと思っています。これはお金がかかることなので一長一短でできることではないと思いますけれど，プロの力をいれるのも１つの手かと思います。
中野(繁)委員	やはり無関心層の人たちで、やはりテレビを見るとどうしても、片岡委員がおっしゃったみたいにスマホでインスタ映えとか映えるようなところに行って写真を撮ってということが多いですけれども、東京のほうではすごくいろいろなところでインスタグラムにいろいろなところをあげていると思うのですけれども、なかなか新潟で、私はあまりよく分からないのですけれども、お嫁さんに聞いている話なので、パンケーキの美味しいところがあってそのところが新潟に来てもなかなか新潟では流行らない。

	今、古町でタピオカもあるが，東京では行列で並んでいてみんな写真を撮っているのに、新潟はあっという間に行列がなくなってしまってということで、新潟の若い人たちがそれを好まないということもあるのかということを感じているので、なかなか私たちがというのは、私が考えて無関心層にアプローチをするためというよりも本当に無関心の人たちに話を聞いたほうが手っ取り早いのではないのかと。そこで、いろいろな皆さんとお知恵を出し合いながらやっていったほうがいいのかというような気がします。
中野会長	聞いてみると大変ごもっともなご意見だと思います。実際のところ、無関心層というのはどのあたりなのですか。関心がある方というのは、先ほどのいらっしゃる方ですとか、花屋に行く方とか分かるのですけれども、無関心層の抽出ということは難しいところかという気がするのです。何に対しても無関心な人もいますし、花に無関心だという方もいます。私は大学で学生と接していると、何に関心があるかどうか分からない学生もいます。やはり接する機会があると、少なくともきれいだというところまではいくのは間違いないかという気がするので、あと一押しかということもよくあるのです。 　やはり世代的なところもかなりあるのではないかと。今、玉木委員からインスタ映えの話が出ましたけれども、インスタ映えということになると、若い方々、特に女子が多いわけですよね。そのあたり性別的なことも違うと思います。先ほどテレビの話が出ましたけれども、若者の話を聞いていると若者は今全然テレビを見ないのです。そのあたりは世代によってアプローチの仕方もいろいろ変える必要もあるのかという気もします。例えば新潟県の若者が、無関心層も含めてですけれどもどういうところから情報を入手しているのか。無関心層だけ抽出するのは少し難しいと思うので、全体的に情報を入手するような、むしろ関心のある人と関心がない人の違いが分かるような形で調査をされるといいかという気がしますけれども、そのあたりは実現性的にはどうなのですか。
事務局 （松尾課長）	無関心層にアプローチをするということはなかなかイメージがわかないのですけれども、中野先生がおっしゃったように、やはりターゲットをどう設定するのかだと思うのです。ご商売をやられている方は当然やっていると思うのですけれども、この商品は誰に向けて売っているのかとか。 男性なのか女性なのか若者なのか年配の方なのか、それによって売り方であ

	ったり商品のタイプが変わるわけです。同じことが花育の話でもあるのかと。例えば、若い人に花に対して関心を持ってもらうやり方と高齢の方に持ってもらうやり方、男性女性それぞれ違うのだと。 　役所の悪いところだと思うのですけれども、広く薄くターゲットにしようと何でもやってしまうのですけれども、結局、だれにも刺さらないというのが役所の今までの悪いところだったのですけれども、そういうことが必要かもしれませんけれども、この層を、この方にもっと花を届けましょうというふうにターゲットを絞ると、ではこういうやり方がある、こういけるということが具体化すると思うのです。我々は今、特にターゲットが決まっていない状態なので、ぜひ少なくとも若者でもいいですけれどもどの場でも、ここにささるように狙っていこうと、ターゲットのとりあえず今ここをねらおうというふうにご意見をいただいてまとめていただけると、より我々の行動が具体化すると思います。
中野会長	そのあたり委員の皆さんはいかがでしょうか。少し、話は元に戻りますけれども、今いろいろな方の意見を聞いていることはどうかということなのですけれども、市役所の例えば職員の方は世代も性別もいろいろ、もちろん無関心な方、関心のある方もいらっしゃると思うのですけれどもそのあたりを例えば身内的に聞いてみたりすることはできないのでしょうか。要するに第１段階として。
事務局 (松尾課長)	花に関する意識調査みたいなものですか。できるとは思いますけれども、それは考えてみます。
中野会長	どこか外に出て大々的にということはなかなか難しいので、そのあたり手にかかると。つけられるところからやっていただけると、先ほど玉木委員がおっしゃったような、それこそ無関心な方も多分いらっしゃると思うので、そういう方の意見も聞くことができます。例えば、ここにいらっしゃる事務局の方も、先ほど一番最初のご挨拶のときに出ましたけれども、最近、雪椿の苗で興味が出てきたというような方もいらっしゃるでしょうし、例えばそういうきっかけなんかがやはり聞いてみたいということもありますので、そのあたり現実可能なところからぜひ試したいと思います。 　少し話は元に戻ってしまいましたけれども、今ターゲットのお話が出ましたけれども、そのあたりいかがでしょうか。

中野(繁)委員	私はたまたま花で仕事をしているものですからあれですけれども、私は花を嫌いな人はいないと思っておりまして、花に携わっている人間として切り口のことをもっと考えればいいと思っているのです。今、本屋なんかに行くと、昔から見れば園芸のブースはすごく少なくはなっていますけれども、今だと多肉植物とバラが少しあって、多肉植物がでーんとありまして、今、季節なので野菜があるというような、ベランダでも作れる野菜とかという切り口でやっているのですけれども、私たちのやり方が悪いのか努力が足りないということで私はそう思っています。切り口なんてたくさんあるのです。考えてみればたくさんあるので、もっともっと知恵を出せばいいと思っています。古い人間かもしれないけれども切り口の問題はたくさんあるような気がしています。水もやらなくても育つもの、それから多肉を、穴なしのところで育てる多肉とか本当に切り口なんて山ほどありますので、若い人なんて花なんか嫌いではないと私は信じているわけです。私たちの努力が足りない、私たちの考えることがもっともっとあってもいいと、花に関する仕事をしていていつも思っておりました。 　少し余談ですけれども、去年花育センターの駐車場に入るところ、ボーダーでずっとほうき草が、コキアが植えてあったのです。私はあちこちに出かけることがあるのですが、その都度コキアの話をずっとずっと春から秋の終わりまで、最後はコキアで作ったほうきをお見せして、そして靴紐でここは作ったのですという形で、これは知り合いの人がボーイスカウトか何かで習った結び方なのですと言いながら紹介して、春から秋の終わりまでずっとコキアの話を必ず入れてきたのですけれども、見に行ったよ、見て来たよと。新潟でも、ひたちなかの海浜公園まで行くと大変なので、身近な花育センターで見られるよ、行って来たよという声も聞きまして、私たちはもっと努力しなければいけないと思っております。
横山委員	ターゲットの絞りこみということで今、市役所の皆さん方に意識調査などもすごいありやと思って伺っていました。やはり、私の中ではもう花育という言葉からですとやはり次世代が第１のターゲットではないかと思っています。やはり、子供たちが花に接することで、あと接するだけではなくて、新潟にとっては花のビジネスも大きなものですから、その辺を含めてやはり子供たちに花に接し、花を伝えていくというところがやはり一番ではないかと考えています。

	私も花育マスターとして園芸講座などに参加すると、やはりお時間も気持ちの余裕もあるのかやはりある程度の年齢の高い方が圧倒的に多いのでそれはきっと花育マスターの皆さんも感じていらっしゃると思うのですが、そちらをおいていっていいわけではないのですが、やはり若い方、そして子供たちに少しターゲットを、少しではなくていわゆるＥＳＥの考え方からしてもおいていくのがふさわしいのではないかと思っています。もちろん、調査なども必要だと思います。
中野会長	いかがでしょうか。やはり、花育という言葉がついているとやはり、今、言葉なのですけれども仕込んでおくという形ですよね、要するに。そのあたりいかがでしょうか。
事務局 (岸本補佐)	そんなことを想定していたわけではないのですけれども、改めて皆さんの計画の中で花育って何というところを文字で１回おさらいしてもらおうかと。もしその機会があればと思って、そこの抜粋を白黒コピーですけれども用意させてもらったので、今ちょうど横山委員から言われた花育としてということで考えたときに、そこのところを見ながらまた見つめ返していただくとありがたいという気もします。本当に抜粋です。表紙と、花育とはというもう図の１番のところと、あと今回かかわることをさせてもらった花育の日についてということがもう推進計画ところに挙がっておりますので、そこの抜粋をつけさせていただいています。
事務局 (松尾課長)	補足します。中野先生にご相談している時間がなくて申し訳なかったのですけれども、つい今朝ほど私と補佐で話をしていた中で、花育の日をどう普及啓発をしていくかというところで、まずターゲットをどうするかということもあると思うのです。ターゲットが決まったら具体的に何をしてもらうのかと。私も花育担当は２年目に入ったばかりですけれども、そもそも花育の日という話を聞いて私は何をしたらいいのですかと。市民の方に花育の日だとお伝えをするということはイコールあなたにこれをしてほしいのですということを伝えなければ、私は何をしたらいいですかと。何が言いたいのですか、分からないのです。花育の日ということをアピールするということはイコール、アクションを求めることだと思うので、何をしてほしいのかと。ターゲットが若い人になりましたけれども、若い人に何をしてほしいのかを訴えるのが花育の日ですと、一つではないかもしれませんけれども、定義づけみたいなものができれば、より行動計画というか具体的なプランにつながっ

	てくるのかと思うので、そもそも花育というのは何だということで、急遽、このようにさせてもらいました。
中野会長	今、ターゲットの絞り込みということで、お子様というような話が出ていますけれども、それで具体的に例えばどんなアイデアがあるのか、そのあたり委員の皆様からのご意見がありましたら、ぜひよろしくお願いいたします。小学校の中でということで、いかがでしょうか、そのあたりは。
八百板委員	小学校あるいは学校でという話に多分なるだろうと思ったのですけれども、私はお話を聞いていて一番だった疑問などは、新潟市としてこの花育をとおしてどういった市民を育てたいかというところが明確ではないと思うのです。私たち学校は新潟市の教育ビジョンに基づいて学校を運営しています。そこには、どういった新潟市民を育てるかというものは明記されているわけですけれども、それとこの花育というものが一体どうリンクするのかということは非常に不明確だと思うのです。まず、それが１点と、それから、具体的なゴールの姿が明示されていないということがまず一つです。どういった市民なのかということ。 今、対象といった話がありましたけれども、これだけ新潟市は人口減少と言われている中で若い人にターゲットをあてたとしても、今の若い人たちはお金の使い方が非常に自分のことに向いているわけですよね。そもそも、花について興味のない人がそれについてお金を使うかと。そうなったときに、やはり人を対象として絞り込むことが本当にいいのかと思うのです。 私たちは教育現場で地域と学校で連携協働していくという話があります。学校は学校の役割、地域は地域の役割。目的は共有するけれども、それぞれの立場でその目的に向かってとなったときに、まず目的が明確ではないことがそもそも役割が明確にならない理由ではないかと私は思っています。それが学校としてお願いしたいところです。このまま学校で花を授業の中で取り入れろと言われても、学校は手一杯です。新学習指導要領に向けての準備もありますので、それはやはり難しい。学校は今この数値を見ますと相当な数の方たち、97 パーセントの人たちが小学校では花育活動を実施しているわけです。となれば、学校だけではなく、今度は市民に向けて何をするかといったところが大事になるのではないかと私は思います。 先ほどのターゲットとなったときですけれども、私は秋葉区の小合小学校に勤務させてもらっていますが、秋葉区はすごい地域だと思いました。花の

	歴史がすごいのです。でも、それを新潟市はアピールしているだろうか。富山がすごいのは、施策にそれが入っていることではないでしょうか。市全体で富山のその花の部分を十分アピールしているということなのですけれども、やはりプランが市全体としてそもそも足りないのではないかと。新潟市が本当に花を新潟市の売りにしていくのであれば、きちんと市の施策の中の柱にして、例えば開港 150 周年をやるのであればチューリップ 100 周年をやったっていいわけです。それを、やはりしないでそもそものもっとその市民レベルでこうやって話をしていても結局何も変わらないのではないかというのが私の意見です。 　ターゲットにおいてはもっと広くやるのであるならば、やはり歴史とか、例えば、本年度は花の歴史について市としてアピールしていくとか、あるいは今年度市の花はチューリップだけれども、花育としては例えばアザレアをとか、ボケとか、クリスマスローズといった花に焦点を当てて、私も行政に勤めていたことがありますけれども、行政の皆さんがみんなここのあたりに花をつけて、そういうようなものとか、市の例えばイベントのときには必ずその花を飾るとか、トータルで行政がしっかりと動くべきところは動いて、市民、花き産業の方たちに下ろしていくというプランをもう少し練り上げるべきではないかと思います。
中野会長	ありがとうございます。そのあたり、事務局としてはいかがですか。
事務局 (松尾課長)	反省すべき点は多々あると私も感じております。
中野会長	今の八百坂委員からのご意見が出ましたけれども、ほかの委員からそれに対していかがでしょうか。あるいは、全く新しいご意見でもかまいませんけれども、そろそろ時間も詰まってきましたので。
食花ｾﾝﾀｰ (岩野 Mg)	委員の皆様からご意見をいただきました。私は、この食育・花育センターで花育担当と、あとガーデンのほうで植栽担当をしています岩野といいます。いただいた意見で無関心層へのアプローチということで、すぐできるか分からないですが私たちの現場として今、花推進委員会と協力して母の日、ゆりフェアとか食育・花育センターでやっているのですが、そういったものをこども創造ｾﾝﾀｰや動物ふれあいセンターとかで飾って、こども創造ｾﾝﾀｰには来るけれどもこちらの施設には来ないといった方たちもいるのでそういったことも全体で少し話しながらやっていければと思っています。

	チューリップ 100 周年ですが、それも私たちガーデンのほうで今、大体 60 種類くらいのチューリップを植えているのですが、それを今度来年度は 100 種類とかにするとかそういった実現できそうなものは現場でやっていこうとは思っております。
中野(繁)委員	マスコミとかそういうところに載るということを皆さんのご意見から聞いて、本当にそういうふうなことだという認識ですけれども、見附にイングリッシュガーデンがあって市長も一生懸命、行政も一緒になってやっている。雑誌に３ページ、４ページで載ったりする。見附は花のまちみたいになっていて、あそこの奥のほうのハウスで育てている花も見附の商店街のところに花をきちんと配られたりして、その花も奥で育てたものをまちの飾りに使っているというようなことで何ページにもわたってそのようなものを紹介して、写真も文章もたくさん出ていて。見附が花のまちみたいになっていて、私はあれがすごく羨ましいです。何か一つぽんと考えられそうな気がするのです。今年も行きましたが、本当に進化していてすごくきれいになっていました。バラなんかもよくて、レンガのところにしっかり止める仕掛けなどがあって、葉っぱをめくって見てくるといいと思って皆さんにもお話するのですけれども、やれるような気がします。何か一生懸命みんなで知恵を出し合えばできることなんてあるような気がしています。
中野会長	ありがとうございます。だいぶ、長く皆様からいろいろご意見をいただきましたけれども、施策的なその基本的なところから、例えば今年度さっそく手をつけられるようなご意見がいろいろ出たと思いますので、そのあたり事務局でまとめていただいて、それで今後にぜひ生かしていただきたいと思います。ほかによろしいでしょうか。 次に（４）その他です。委員の皆様から何かご報告等ありましたらお願いいたします。
中野(繁)委員	実は花育マスターの運営方法が変わりまして。それで実は毎年、花屋に勤めているものですから、花と一緒にマスターさんで来て、植えてくださいということで今年も実際に話があったのです。そうしましたら、地域コーディネーターの小学校の先生の方なのですけれども、申し訳なさそうな声で、中野さん、今年から報酬がなくなるのですけれども、かといって学校からも出せるものがないのだけれどもどうしようと言われたのです。うちはお花をたくさん出させてもらうからそういうものはと。私も雇われている身なので、簡

	単に言えることではなかったのです。報酬がないのだけれどもということも、私が勝手に決めるわけにもいかなくて、やはり上の者に、こういう話だったのだけれども、マスターさんの絡みでこういうお金がと。向こうもすごく気を遣って何か戸惑い気味にお話をしてくれて、中野さん今度マスターの申し込みを市のほうに言わないで直で言えばいいのだろうかと。そして、いろいろお話をさせてもらったほうがいいのだろうかと。私も花育マスターをたまたまさせていただいているものだから、そうではなくて、マスターはマスターで申し込んでくださいということは言わなければないということでお話をしていたのですけれども、先ほども資料を見ましたら、平成 34 年度か平成 33 年度にすごく数を増やそうという目標がある中で、これもほんの小さなことだけれども、そういうことが積み重なっていくような気がいたしまして、少し考えなければいけないのではと思っておりました。
中野会長	いかがでしょうか。そのあたりはなかなか難しいところであるとは思うのですけれども、ぜひやはり生のご意見としてぜひお聞きいただきたいと思います。ありがとうございました。ほかにいかがですか。ほかにないようでしたら、これで本日の議事を終了したいと思います。議事進行へのご協力ありがとうございました。事務局へお返ししたいと思います。
司　会	ありがとうございました。中野会長、委員の皆様、議事進行へのご協力、多数の意見をありがとうございました。今回の意見を踏まえまして、これからの花育推進に生かしてまいります。今後ともまた意見、ご協力をよろしくお願いいたします。 　それでは、次に連絡事項に移ります。連絡事項が三つございます。まず、１点目ですけれども、今後の委員会の開催についてです。平成 29 年度まで年に２回開催していました参集会議を昨年度は年に１回といたしました。１回に減った参集会議を補完するという意味で、書面会議をこの３月にさせていただきました。その時点で事業報告の資料を送らせていただいたことを、書面会議ということにさせていただいたのですけれども、ただ事業報告は今日の報告を聞いていただきお分かりかと思うのですけれども、この会議でも前年度の事業報告はできる内容なのです。今後ですけれども、基本参集会議は年に１回、書面会議は行わない。ただ、今後どのような意見や問題が出て

	くるのか、皆さんに集まっていただくことがあるのかということは不確定ではありますけれども全くないと言い切れませんので、できましたら今後は年に１回の参集の会議プラスそのときどきに応じて参集という形にさせていただければということが事務局の提案なのですけれども、いかがでございましょうか。
中野会長	それでよろしいかと思います。
司　会	ありがとうございます。皆さんお忙しいところですので、今日行って来週とかそういう無茶な参集方法はございませんけれども、逆に委員の皆様のほうからもこういうことがみんなで検討したほうがいいものがあったりすればちょくちょく集まるということは少し無理かもしれませんけれども、それが集まった時点で年１回できるのか。どうしても１か月後くらいにみんな集まらないといけないということがあるのか、そこらへんも一つ検討させていただきながら伺いたいと思いますので、そういう意見がございましたら、うちのスタッフにご意見をいただきたいと思います。 　２点目です。今日の会議の報酬についてでございます。報酬については、６月 25 日に指定の講座に振り込ませていただく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。３点目は駐車券は忘れずにお持ち帰りください。では、以上をもちまして花育推進委員会を終了させていただきます。本日は、お忙しいところありがとうございました。